

めあて

学習したことを生かし、どのようなお菓子を開発するのか、ターゲット層を設定し、お菓子の重さや個数、どのようなお菓子にするのか、新商品の企画を提案しよう。

発展課題 4

あなたは A 企業のお菓子の商品開発部で働いています。この秋に新商品のおかしを開発することになりました。イメージとしては、1 袋に小分けしたお菓子がいくつも入っている商品を考えています。利益を得るために、内容量 400 g で 400 円の商品にする予定です。どのようなお菓子を開発するのか、ターゲット層（ファミリー向け、大人向け、子ども向けなど）を設定し、お菓子の重さや個数、どのようなお菓子にするのか、新商品の企画を提案しましょう。

（※袋の重さは内容量に含まない。また、学習したことを生かし、伴って変わる 2 つの関係を式、表、グラフに表すこと。新商品のおかしを何にするかは自由に考えてもよい）

新商品企画書

提案者 川井 柚香

○新商品名

「マロにチョコっと」

○内容

マロンクリームとビターチョコレートを
ミニホットケーキではさんだもの


○主なターゲット層

20代～50代の女性（大人向け）

○コンセプト

- ・おなかが減った時にちょこっと食べらる
- ・秋を感じながらも甘すぎない
- 秋→マロン味 甘すぎない→ビターチョコレート
- ・一度に2～3個食べたくなる

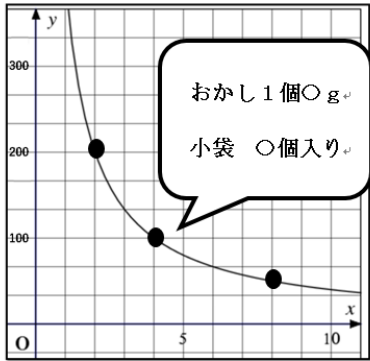
○商品イメージ



○容量

1個 ? g (総量400g)

1袋 ?個入り





(式)

$$y = ?/x$$

重さと個数を決めた理由

- ・大人向けなので50gないと食べた感じがしなかったから
- ・少なくとも10個以上ないとお得感が感じなかったから

おかしの数	1	2	3	4	5	6	7
おかし重	400	200	133.3	100	80	66.6	57.1

必ずかくこと
グラフ、表、式
理由

学習課題や学習手順例（ヒント）

- ① 「1 こ当たりのおかしの量 (g)」と「小分けしたおかしの数 (個)」の関係をグラフ、表、式に表す（**提出物**：③に使う）

（ヒント）・「1 こ当たりのおかしの量 (g)」と「小分けしたおかしの数 (個)」のどちらかを「 x 」or「 y 」にする

- ② 誰をターゲットにした商品かを考え、「1 こ当たりのおかしの量 (g)」と「小分けしたおかしの数 (個)」を決める

※ 粘土でお菓子の形を作って1 個あたりの重さを量ったりしても OK

- ③ 新商品の企画書を書く（**提出物**）

おかし1 個当たりの重さと、小分けした袋の数の関係がわかるグラフ、表、式、を使うこと（問題文の下を例にする。）

提出

③を**提出**する

必ず①はかくこと

紙もしくは GIGA 端末でまとめる